

1 研究テーマ

(1) 研究テーマ

『豊かな関わりの中で達成感を味わうことができる保健体育学習の在り方』

～山鹿型授業の確立を目指して～

生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるためには、それぞれの種目の特性に触れさせ、その楽しさを味わわせる学習指導の実践が必要である。そして、その学習過程には教師と生徒、生徒同士の関わりが不可欠である。そこで、各単元で多様な言語活動を展開し、課題の解決に向けて仲間と助言し合う活動（共同学習）を学習計画に位置付ける。教師の適切な支援のもと、仲間と試行錯誤しながら共に学び、共に認め合いながら技能を向上させ、運動・スポーツの楽しさを味わわせる学習指導を実践し、生涯にわたり運動・スポーツに親しむ資質、能力を育成していきたい。そして、豊かな関わりによる学習活動（①ICTの効果的な活用 ②協同学習）によって、技能向上に効果的にはたらく教え合い学習の活性化を図り、できた喜び（達成感）を実感できる保健体育学習のあり方を探っていく。

2 研究組織

○会長 松永 博文（菊鹿） ○副理事長 内田 正典（山鹿）
 ○理事長 丸山 喜寛（鹿本） ○研究理事 田島 信哉（米野岳）

3 活動状況

月	日	研究部会	活動の概要
5	6	総会・研究部会	○役員選出 ○市研究テーマ・努力点決定 ○年間活動計画の確認
7	25	夏季研修会	熊本大学との合同研修 ○研修1 講話・実技「効果的なトレーニング方法とスポーツ障害の防ぎ方」 講師：熊本機能病院 総合リハビリテーション部 理学療法士 中門 啓一 氏 ○研修2 講話 「保健体育科の現在地～新学習指導要領の実施に向けて～」 講師：熊本大学 教授 坂下 玲子 氏 ○研修3 レポート研修・フリーセッション
10	6	半日研	○研究授業 山鹿市立菊鹿中学校 第2学年1・2組 田中 誠也 教諭 「B 器械運動」 ア マット運動 遠山 剛 講師 「G ダンス」 ウ 現代的なリズムのダンス ○授業研究会
1	20	半日研	研修1 「今年度の反省と次年度への志向」 ・今年度の取組の振り返り ・次年度への志向 研修2 「班別協議～アクティブラーニングの授業改善～」 ・授業づくり「保健」「体育理論」（略案作成） ・各学校の実践紹介、情報共有

4 研究の概要

(1) 大学と連携を図った合同研修（熊本大学にて）

熊本大学と連携して合同研修を行った。また、研修には教職課程を履修している学生にも一緒に参加してもらった。講師を招聘し、講義形式で行ったり、午後からは新学習指導要領の解説を含めて坂下先生に最新の教育事情について講話をしていただいた。また、学生と現職教師とのディスカッションの場を設け、活発な意見交換が行われ、互いに刺激のある研修となった。



研修1：「効果的なトレーニング方法とスポーツ障害の防ぎ方」



研修2：「保健体育科の現在地～新学習指導要領の実施に向けて～」



研修3：レポート研修・フリーセッション

(2) 班別協議～アクティブラーニングの授業改善～

アクティブラーニングの視点から、互いの実践を振り返りながら授業改善に努めることができた。また、夏季研修に続き、熊本大学の坂下先生や大学生にも参加していただき、実りある研修となった。



研究授業：ダンスの授業の様子



授業研究会：熊本大学より坂下先生と学生も参加



授業づくり（略案作成）

5 まとめ

本年度は『再現性』をテーマに授業作りや教材研究・研究の推進にあたってきた。今後も、大学との連携により、最先端の教育等、情報共有をしながら行っていく。積極的に大学生に参加してもらい、「誰でもできる保健体育の授業」を目指す。つまり、「大学生でもできる授業」である。指導力のある先生だけができる授業ではなく、質の高い授業をより多くの生徒に提供できる、そんな授業のスタイルを目指していく。その指導の手引きとして山鹿市中学校保健体育科指導の手引きを作成している。研究会での実践を中心に内容も充実したものが作成できた。

これは、これまでの諸先輩方の蓄積があってこそのものである。だからこそ、先輩方が残していただいたものを今後につなげていく、そして広げていくための研究でありたい。